

## 平成28年 第9回教育委員会会議

### 1 日 時

平成28年8月25日（木）

開会 10時00分

閉会 11時10分

### 2 場 所

教育委員会室

### 3 出席者

田中新太郎教育長、金田清委員、中村健一委員、横山真紀委員、橋正徹委員、眞鍋知子委員

### 4 説明のため出席した職員

新屋長二郎教育参事、竹中功教育次長、齋田正活教育次長、平畠敏彦教育次長兼教員指導力向上推進室長、小浦寛教育次長兼学校指導課長、池田誠庶務課長、杉中達夫教職員課長、篠原恵美子生涯学習課長、浅田隆文化財課長、徳田伸一スポーツ健康課長

### 5 議案件名及び採決の結果

議案第16号 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について（原案可決）

議案第17号 平成28年第3回石川県議会定例会提出予定案件について  
（原案可決）

議案第18号 石川県産業教育審議会委員の委嘱について（原案可決）

議案第19号 石川県社会教育委員の委嘱（任命）について（原案可決）

議案第20号 石川県スポーツ推進審議会委員の委嘱について（原案可決）

議案第21号 職員の人事について（原案可決）

### 6 報告案件

- 平成28年度全国高等学校総合体育大会等における本県選手団の成績について

### 7 審議の概要

#### ・開会宣告

田中教育長が開会を告げる。

#### ・会議の公開・非公開の決定

議案第17号は平成28年第3回県議会定例会への提出予定案件のため、議案第18号から議案第21号は人事に関する案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項に基づき非公開とすることを、全会一致で決定。

#### ・質疑要旨

以下のとおり

議案第 16 号 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について（池田庶務課長説明）

議案第 16 号「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について」であります。

本議案につきましては、2 の根拠法令にありますとおり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条において、教育委員会は所管する事務の管理及び執行状況について、点検及び評価を行い、公表することとされておりますので、その内容をお諮りするものでございます。なお、この報告書の作成にあたりまして、金沢大学の浅野教授と金沢美術工芸大学の桑村教授のお二方から、点検評価に対するご意見を頂き、報告書に反映しております。

それでは内容につきまして、お手元の別冊の報告書で事業を抜粋してご説明させていただきます。報告書の 1 ページをお開き願います。

一つ目の柱は「文化や風土を生かした、世界に通じる人づくり」であります。

3 ページに移っていただきまして、上段の方になります。「㊦英語のコミュニケーション能力を高める授業の実践研究」につきましては、英語指導力分析会議を開催し、本県の英語教育の現状及び課題等について協議いたしました。会議では、現状は「読む」「書く」が中心であり、「聞く」「話す」も含めた英語 4 技能をバランス良く育成するための具体的な改善案が示されました。これを受け、モデル校において実践研究を行い、英語教育改善プランをとりまとめました。今後につきましては、各高校において指導方法の共有化を図るとともに、小中高校教員を対象に英語教育への意識改革、指導法の習得を進めることなどを記載しております。

6 ページをお願いいたします。

2 番目の柱は、「確かな学力をはぐくみ一人一人の個性と創造性を伸ばす教育」であります。

7 ページをご覧いただきまして、上段の方、「児童生徒の主体的に学ぶ意欲の向上」につきましては推進校 11 校を指定し、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導法などの実践研究に取り組んだこと、今後は ICT の効果的な活用方法やアクティブ・ラーニングを取り入れた指導方法について周知していくことなどを記載しております。

飛びますが、16 ページをお開き願います。(5) の「㊦全国産業教育フェアの開催準備」につきましては、本年 11 月 5 日、6 日に開催する全国産業教育フェアに向けて、準備委員会を立ち上げ、体制づくりを進めた他、プレ大会を開催し、本大会における生徒一人一人の役割の理解や問題点の検証を行いました。今後は本番に向けた具体的な準備作業を進めていくこととしております。

19 ページをお願いいたします。下の方の (6) になります。「㊦いしかわ版特別支援学校技能検定の実施」につきましては、高等部において、一般就労を目指す生徒の意欲や技能の向上を図るため、県独自の技能検定制度を導入するものであり、初年度の平成 27 年度は清掃部門について認定大会を実施しました。今後につきましては接客・サービス部門など、順次検定種目を増やしていくことを記載しております。

飛びまして、24 ページをお願いします。

3 番目の柱は「豊かな人間性をはぐくむとともに、健康や体力の増進に努める、たくましい人づくり」であります。3 の (1)「道徳教育の充実」につきましては、ふるさとの題材を扱った、いしかわ版道徳教材「ふるさとがはぐくむ どうとく いしかわ」の映像資料、これは DVD でありますが、これを作成・配布するとともに、推進校を中心とした道徳教育の充実に取り組みました。今後は「特別教科 道徳」の全面実施に向け、

取り組むこととしております。

33 ページをお開き願います。

4 番目の柱は「時代の変化に対応した、魅力ある学校づくり」であります。

37 ページに移りまして、上段の方になります。「㊦七尾特別支援学校輪島分校の移転準備」につきましては、現在輪島分校が使用している校舎は輪島市からの借り受け物件であり、耐震性がなく老朽化も進んでいることから、門前高校の余裕スペースを活用することとし、必要となる校舎の改修工事に係る実施設計を行ったこと、今年度は平成 29 年 4 月、来春の移転に向け、改修工事を実施することを記載しております。

40 ページをお開き願います。

5 番目の柱は「学校、家庭、地域が連携・協力した、社会全体による教育力の向上」であります。

41 ページをお願いします。下段の「家庭教育の充実」につきましては、小中学校入学前の子どもの持つ保護者に対し、規則正しい生活リズムの重要性や、発達段階を踏まえた子どもとの関わり方などを掲載した「親学び冊子」を作成・配付するとともに、県内の全ての小中学校において「親学び講座『肝心かなめの1年生塾』」を開催したこと、今後は、引き続き子育て家庭を支える取り組みを通して、家庭教育力の向上を支援することを記載しております。

44 ページをお願いします。

6 番目の柱は「学びの気運に満ちた生涯学習社会づくり」であります。「県民大学校の充実」につきましては、多様化する県民の学習ニーズに応えるため、1186 の講座を開設し、開校以来の修了生は延べ1万6119名に達したことや子育て世代を対象とした「ファミリー・カレッジ in 本多の森」を新たに開催するなど、若い世代の学習機会の充実と生涯学習の振興を図るとともに、兼六園周辺文化の森のにぎわい創出にも努めたことを記載してございます。

46 ページをお願いします。

7 番目の柱は「文化財の保存・活用」であります。

47 ページの方をお願いします。上段の方の「㊦いしかわ歴史遺産認定制度の創設」につきましては、ふるさとの文化財への興味や関心が高まり、郷土に対する誇りや愛着の醸成につなげることを目的に、本県の魅力的な歴史や伝承等を伝えるストーリー性を「いしかわ歴史遺産」として認定する制度を創設し、5件を認定したこと、今後も引き続き認定を行い、認定された遺産について市町とも連携し、情報発信等を通じて観光資源としての活用を促進していくことを記載しております。

50 ページをお願いします。

8 番目の柱は「ライフステージに応じたスポーツ活動の充実」であります。

52 ページにまいりまして、下段の方になります。「㊦日本スポーツマスターズ 2015 石川大会の開催」につきましては、シニア世代のアスリートが集い、競い合うとともに交流を深めるため、昨年 9 月に全国から約 8100 人もの選手・監督の皆様にご参加いただき、県内 13 の市町を会場に開催したこと、今後は県民の誰もがスポーツに親しむことができるよう、「スポーツ・レクリエーション交流大会」を開催することを記載しております。

54 ページをお開き願います。9 の「石川の教育振興基本計画の改定」でございますが、本県教育全般の指針である石川の教育振興基本計画が、計画の中間年である 5 年目を迎えたことから、新たな計画として本年 3 月に第 2 期の計画を策定したものであります。

55 ページをご覧ください。「教育委員会会議及び教育委員の主な活動」でございます。

「1 教育委員会会議」につきましては、平成 27 年度は 15 回開催し、議案 36 件、報告事項 27 件について、教育委員の皆様にご審議やご意見を頂きました。その下の「2 教育委員の主な活動」につきましては、委員の皆様には大変お忙しい中、県内小中学校に出向いていただき、学校現場の状況把握や市町の教育委員との意見交換など、年間を通じて積極的に活動していただきました。その一覧表でございます。

56 ページからは審議された議案や報告事項について記載してございます。最後の 58 ページは、教育委員会関係の平成 27 年度当初予算を記載しております。

以上で内容の説明は終わりますが、本日、審議いただいた後、県議会へ報告書を提出するとともにホームページに掲載し、公表することとしております。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

### 【質疑】

(橋正委員)

義務教育の方ですね。小中学校は教員も子どもたちもいわゆる学力調査といいますか、県の基礎学もありますけれども、一生懸命取り組んでいるのではないかなと思って見えています。いつも新聞で結果を見ると全国トップクラスでというような見出しが踊る状況、頑張りがあってのではないかなと思うのですけれども、その次の県立高校ではこの子らを率いて行って、さらなる高みを目指そうとする子どもらの夢の実現と言いますか、そういうものを最大限に支援していくと言いますか、とても大事なのではないかなと思って見えます。2 番目の「確かな学力をはぐくみ」という、この中には幾つもの項目、施策と言いますか、大きい予算も付けられているわけですが、是非、うまく活用と言いますか、そういう指導をこれからもより一層強く進めていただければと思います。

それから、学校の取り組みの成果の確認と言いますか、評価と言いますか、県立は例えばどのようにされているのかなということもちょっと気になるのですけれども、とにかく県立高校はこういう全国トップクラスの優秀な成績を取る子どもらを引き受け、全力を尽くして、またさらなる高みへ導いていただきたいと思います。感想なのですけれども、強く期待したいと思います。

(小浦教育次長兼学校指導課長)

小中高と、高校の話で、高校は学力スタンダードを作りまして、それぞれの学校ごとにおいて、いろいろな学校によって入ってくる生徒が違いますので、それぞれの学校においてスクールポリシーを決めた上で、どんな力を付けるのか。さらに今回の学習指導要領の改訂時期になりますから、どのような手だてをやるのかということをお各々学校においてしっかり考えてやっていくという方向を定めていますので、やはり各学校ごとに自分の学校の生徒にどんな力を付けるのか、どんなにやるのかということからスタートしていければと思っています。

(中村委員)

特別支援教育の充実で、19 ページにある県の技能検定認定大会の開催とありますが、これはどこが主催でやられたのですか。

(小浦教育次長兼学校指導課長)

これは県がバックアップしてございまして、特別支援学校が集まってやっています。

(中村委員)

以前からやっておられるのですか。

(小浦教育次長兼学校指導課長)

昨年度から始めました。幾つか先行でやっている県があったのですけれども、そういう県を参考にしながら石川版のものを、昨年度はビルメンテナンス協会などの協力を得まして、清掃についての技能検定をやりました。今年度は接客・サービスも入れて、準備している最中です。

(中村委員)

石川県職業能力開発協会があって、技能検定を専門にやっているところがあります。もしお手伝いできることがあればと思ひましてお聞きしたわけです。

(田中教育長)

目的は特別支援学校の子どものたちの就職、一般就労を促進したいということで、彼らの励みにもなる機会ですし、業界の皆さんにも見ていただいて、審査もしていただいて、理解を深めていただいて、1人でも多く一般就労につなげたいということで、まだ始まったばかりですので、順次やっていきまして、またお願いすることもあると思いますので、よろしくお願ひします。

(横山委員)

3 ページ、4 ページの国際社会に対応できる実践的なコミュニケーション能力の育成についてなのですが、たまたまジャパンテントでカンボジアの女性の受け入れをしました。カンボジアの方は3人しかいなかったのですが、たまたまプノンペンの日本語スピーチ大会で銀メダルを取られた優秀な女性だったので、とても日本語が堪能でした。いろいろなお話をさせていただいた中で、日本とのかなり大きな違いというのが、カンボジアの方は3歳から親ももう熱心に英語教育をなさっているということです。とにかく言葉、言葉と。小学校の体育や音楽とかの授業は薄いのですけれども、ものすごく、熱心に勉強していると。

彼女もいろいろな大学、日本の大学も四つぐらい転々として、今また新たな希望の大学にも行っていらっしゃるということで、いろいろ話を聞いていたのですが、カンボジアにしろ、外国にしろそうなのですが、どうしても生活を豊かにするための英語という、もう生活に結び付いてやらなければ生きていけないという危機感があり、親も一緒になって勉強をしている。英語だったり、日本語だったりの語学が伸びていくことに応じて仕事の質が変わったと彼女はおっしゃっていました。レベル1のときは通訳だけだったのが、だんだんお金の管理もあったり、いろいろなプロジェクトの中で双方向の意見をとりまとめていったりという、だんだん仕事の質が変わっていったと言っていました。現場でなぜ英語が必要かということに対し、現場の日本の意識がすごく低いということを訴えられていました。今この3ページ、4ページの点検結果もそうなのですが、石川の魅力を発信するグローバル化を広げたりだったり、いろいろな大会でも全国にアピールをしていくというのが成果だったり、今後の方向性になっているのですが、もっと現場に接して生きていくための仕事自体、職業自体結び付く英語という形を。特に4ページの高等学校においての英会話力の育成などはまさにそこにくると思うのですけれども、そういった部分にやはり英語を使うことで仕事力が英会話で豊かになるということをセットにして。本人が希望したい、挑戦したいという気持ちにつながるような、一番根っこの部分をぜひ伝えていってもらえたらなと思います。

(田中教育長)

ありがとうございます。中村委員あたりは十分承知されていることだと思いますけれども、子どもに英語を勉強して身に付ける、英会話を身に付けるということが世の中に出てからどのように役立って、どのように有効にそれが活用できて自分の人生を豊かにする。あるいは、自分の自己肯定感も含めて、いろいろな意味でそういう仕事の中で自分の存在が確認できていくということがあると思うので、ただ「勉強しろ、勉強しろ」と言ってもなかなか難しいので、やはりこういう企業の方に来てもらったり、実際、企業の方々が英語力を使ってどのようにコミュニケーションを取って、例えば海外の販路開拓をやっているとか、そんなことを少しでも実感として知ってもらって、英語を勉強するのが大事なのだというのを分かっていたいただくのが必要かなと思います。

ただ黒板に向かって「英語を勉強しろ」と言ってもなかなか難しいので、そこはやはりこういう形で実社会とのつながりの中で子どもたちに意欲を持ってもらうのが大事だと思いますし、皆さんご案内のとおりですけれども、小学校での英語の必須化や諸外国、特にご指摘のありましたアジア・東南アジアと比べたら、やはり英語の教科化もだいぶ遅れています。そこを今、10年、20年遅れたものを一気に文科省が取り返そうとして、若干一気に小中高校併せて新たな取り組みをスタートさせるようなところもありますけれども、これは実際社会で求められる能力ということですので、その遅れを取り戻すのに学校現場で一生懸命追いつこうとして頑張っていますので、一步一步しっかりとやっていくことが大事だと思いますし、教員の皆さんにも逆に子どもさんに実社会を実感してもらう前に、その辺をよく理解してもらって、まさに企業の皆さん、産業界の皆さんといろいろな形でつながりを持つ中で学習意欲を引き上げていくことが大事かなと私は思っています。学校指導課長、何かありますか。

(小浦教育次長兼学校指導課長)

本当繰り返しで全くそのとおりで、自分から学んでいく、数学とかでも全部一緒だと思うのですが、数学でも理科でも自分のやっていることが自分の未来とどう関わっているのか。就職と、社会とどうつながっているか。それはやはりやらなかったら本当に学ぶ意欲というか、やる気も出てこないもので、そこはアクティブ・ラーニングを絡めながらやっていきたいと思えます。

(中村委員)

やはり今の若い子どもたちが成長するころにはもっと日本のマーケットは小さくなって、国際競争力がもっと厳しくなっています。そのときには、英語は絶対欠かせないものになっています、当たり前のごとく。今の若い子たちがちょうど大人になってバリバリやるときに英語が話せないことがものすごくハンディキャップになってくる。ウィークポイントは語学力。これは間違いないところです。けれども、人手不足もありますし、なかなか教える方も少ない。ただ盛り上がってきていることは間違いないので、早くそういう面でもっと予算を確保して、国全体でもっとやってもらいたいなということを思います。

(眞鍋委員)

この報告書を拝見しますと、それぞれの県内の高校でいろいろな授業の指定校になったり、実施校になったり、それぞれの高校の個性的な部分を伸ばすような施策が手厚くされているというのをあらためて感じました。恐らく中学から高校への進学に当たって

は、偏差値でここら辺の高校にというような指導があるかと思うのですが、そうではなくて、保護者の方や進路指導の先生は、この高校に行くところという個性を伸ばして、こういう授業があるということをも十分に理解して、生徒の進路指導のときに、偏差値だけではなく、魅力ある取り組みを行っているいろいろな学校があるということをも、現場で生徒に伝えてほしいなと感想を持ちました。

(田中教育長)

ありがとうございます。特色ある高等学校づくりというのはずっと県教委も過去から取り組んできて、最近ではハイスクールの指定などもたくさんありまして、みんな意欲的に取り組んでいますけれども、要は中学校の進路指導との連携協力というところをもっと充実していく必要があるのだらうと思います。ハイスクールとかそんな話だけではなくて、もう少し問題のある子どもの対応などいろいろなことも含めて、やはり将来を見通して、どこの高校を選ぶかということをもう少し中学校の進路指導の先生方に高等学校の取り組みを理解してもらおうという努力もまた引き続きやっていきたいと思えます。

(田中教育長)

採決を行う。

(全委員)

異議なし。

報告事項 平成28年度全国高等学校総合体育大会等における本県選手団の成績について(徳田スポーツ健康課長説明)

それでは資料10ページをお開きください。「平成28年度全国高等学校総合体育大会等における本県選手団の成績について」ご報告いたします。

最初に、1「全国高等学校総合体育大会」につきましては、本県より29競技に選手514名が出場しました。団体では水球で金沢市立工業高校が優勝、卓球男子で遊学館高校が3位に入賞しました。

個人では、水泳男子飛び板飛び込みで小松市立高校の中選手が優勝。ウェイトリフティング85kg級で金沢学院高校の西村選手がスナッチで優勝、トータルで準優勝、クリーン&ジャークで3位。水泳男子高飛び込みで小松市立高校の中選手が3位、陸上競技女子では100mハードルで、小松商業高校の藤原選手が3位、吉田選手が4位、水泳男子飛び板飛び込みで小松大谷高校の中川選手が4位に入賞しました。

その他の入賞につきましては一覧表のとおりであります。個人と団体を併せた全体の入賞数は20であります。今後、岩手県で開催される国民体育大会に向けて指導・激励してまいりたいと考えています。

続きまして、11ページをご覧ください。2の「全国高等学校選手権大会」は本県より4競技に選手53名が出場しました。団体では、トランポリン男子、女子ともに金沢学院高校が優勝し、同じく男子で星稜高校が準優勝しました。

個人では、ウェイトリフティング女子63kg級で金沢学院高校の坂倉選手、トランポリンの男子シンクロナイズドで金沢学院高校の中園・石川組、女子シンクロナイズドで

同じく森・高木組、女子個人で同じく森選手が優勝いたしました。

その他の入賞につきましては一覧表のとおりでございます。全体の入賞数は23でありました。

3の「全国高等学校定時制通信制体育大会」は、本県より7競技に選手65名が出場しました。団体では卓球男子で金沢中央高校が5位に入賞。個人では卓球男子で金沢泉丘高校の品川選手が優勝いたしました。

以上、この夏に行われました高校生の全国大会についての報告を終わります。

#### 【質疑】

(中村委員)

この高校総体の水球が優勝というのは前にもありましたか。

(徳田スポーツ健康課長)

平成3年の石川国体時に優勝しまして、それから25年ぶりの優勝です。

(田中教育長)

本当に25年ぶりの快挙です。

(金田委員)

平成27年、平成28年の比較において、入賞数が全てにおいて減っているのですよね。高校総体もそうだし、選手権大会も平成28年度の入賞数が、減少傾向にあるのだけれども。

(中村委員)

優勝は増えています。

(金田委員)

優勝は増えていますね。今度の岩手国体で高校生に頑張ってもらわないと。

(徳田スポーツ健康課長)

国体につきましては、青年の部、少年の部ということで競技がありまして、少年の部には高校生が、まあ一部中学生も出場しますが、基本的に高校生が出場しますので、今回の高校総体の結果を受けまして、今また県の体育協会とも連携しながら、また国体に出場する監督や選手たちに対しまして激励を今、進めているところです。

(金田委員)

今の高校生が、25～26歳でまた中心選手になると思うのだけれども、ここが弱いと向こう5年や10年はもう駄目だという。悲観的なことを言ったらおかしいのだけれども、可能性がありますのでね。高校が頑張らないと。

(中村委員)

そうなのですよ。

(金田委員)



高校が頑張らないと将来がやはり明るくないですわね。ぜひまたそういう視点で頑張っていたら国体につながるのですね。

(田中教育長)

4年後の東京オリンピックもありますので、年度間によって若干上下はあるのですが、引き続きまた少年強化にもしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

(田中教育長)

以降の審議について非公開となるため、傍聴人の退席を促す。

議案第 17 号 平成 28 年第 3 回石川県議会定例会提出予定案件について

池田庶務課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

議案第 18 号 石川県産業教育審議会委員の委嘱について

小浦教育次長兼学校指導課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

議案第 19 号 石川県社会教育委員の委嘱（任命）について

篠原生涯学習課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

議案第 20 号 石川県スポーツ推進審議会委員の委嘱について

徳田スポーツ健康課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

(田中教育長)

人事担当教育次長以外の教育次長と庶務課長及び教職員課長以外の課長の退出を促す。

議案第 21 号 職員の人事について

池田庶務課長、杉中教職員課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

・閉会宣言

田中教育長が閉会を告げる。